



(1) 初年次教育

医学とは何か、医師とは社会の中でどのような役割を担うのかなどを俯瞰できる科目が、初年次から充実しているのが大きな特長。コミュニケーション能力やマネジメント能力、リーダーシップなど、時代が求める医療人の資質を育む「プロフェッショナルリズム」は4年次まで段階的に開講する。また、「行動科学」は、心理学や神経科学、精神科学などの多様な分野を通して人間の心や行動を科学的に理解する力を養う。「自分のためだけでなく、社会に貢献するために勉強する」意識と姿勢で取り組んでほしいとの願いが込められたカリキュラム。

(2) 7カ国10大学との国際交流

国際社会が求める医療改革への動きに的確に対応できる医師の育成を目指し、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国、ポーランド、イラン、ウクライナの7カ国10大学への留学を支援。国際交流センターでは、留学生との交流や異文化理解を図るセミナーを開催している。

(3) 医学教育センター

「世界標準の医学教育」を構築するべく、先進的な医学教育カリキュラムの策定・評価・実施、FD（ファカルティ・ディベロップメント）の企画・実施などのほか、成績不振に悩む学生に対する学修支援なども行っている。会議室や学生開放スペースなども備え、同大における医学教育活動の拠点としても活用されている。

(4) シミュレーションセンター

全身状態を変化させられる高機能シミュレーターを用いた診療・看護技術の習得や静脈注射、超音波などの処置・検査技術の習得など多様なプログラムを提供。実践前の練習、日常の技術の確認、遭遇の少ない状況の模擬体験などを自由に選択し、学修できる環境が整っている。

新時代に向けた大学の「知の拠点」として活用されているのが、大学本館5階と6階にある総合学術情報センターです。図書館部門とICT支援部門、情報基盤

第117回医師国家試験合格率

100% 受験者数115名 合格者数115名

第112回看護師国家試験合格率

100% 受験者数95名 合格者数95名

第109回保健師国家試験合格率

100% 受験者数15名 合格者数15名

※新卒者の状況



2040年には、地域に多疾患を抱えた高齢者の増加が予測されることから、2022年度に改訂された医学教育モデル・コア・カリキュラムでは、「総合的視点」を持つ医師の育成が求められています。これはまさに愛知医科大学の建学の方針と一致するもので、同大では総合診療医学講座を設け対応しています。特に、愛知医科大学病院は高度救命救急センターに指定されている救急医療にも優れています。同病院を基地病院としたドクターヘリシステムが、国内で4番目の事業とし

5学年次後学期からは、重要な診療科での臨床実習で知識と技術を深化させますが、実習先には協定病院のほか、地域医療を体感できる地域密着の中小病院、さらにアメリカやタイ、ポーランドなど海外大病院も用意。医療人としての視野を広げます。

変化する医師国家試験にも対応 時代を先取りするカリキュラム

2040年には、地域に多疾患を抱えた高齢者の増加が予測されることから、2022年度に改訂された医学教育モデル・コア・カリキュラムでは、「総合的視点」を持つ医師の育成が求められています。これはまさに愛知医科大学の建学の方針と一致するもので、同大では総合診療医学講座を設け対応しています。特に、愛知医科大学病院は高度救命救急センターに指定されている救急医療にも優れています。同病院を基地病院としたドクターヘリシステムが、国内で4番目の事業とし

看護学部は「豊かな人間性」「広い視野と国際感覚」「地域社会への貢献」「看護実践能力」を教育のキーワードに、これまで多くの優秀な看護師・保健師を世に送り出し、医療分野に貢献してきました。看護師国家試験では高い合格率を維持しています。大学院では修士論文コースに加え、専門看護師コース、診療看護師コースを設置し、より高度な専門性を身につけた看護実践家の養成に

高い専門性を有する看護師のスペシャリスト養成にも注力

「看護学部は「豊かな人間性」「広い視野と国際感覚」「地域社会への貢献」「看護実践能力」を教育のキーワードに、これまで多くの優秀な看護師・保健師を世に送り出し、医療分野に貢献してきました。看護師国家試験では高い合格率を維持しています。大学院では修士論文コースに加え、専門看護師コース、診療看護師コースを設置し、より高度な専門性を身につけた看護実践家の養成に

グローバルスタンダードの医学教育であると評価、認定

愛知医科大学は2020年度、日本医学教育評価機構により、グローバルスタンダードの医学教育であると認定されました。キャンパス内のすべての講義室やセミナー室にはWiFi環境が整備され、授業支援システム「AIDLEK」により、パソコンやタブレットを用いた講義資料などにアクセスすることができ

「キャンパスのある長久手市は、緑豊かな自然が残る一方で利便施設が揃うなど、学生生活を過ごす場所として、とても恵まれています。今日の医学は大変なスピードで進化していますが、医療を取り巻く環境の変化を見据えながら、未来をひらく充実した医学教育環境を構築していきたいと考えています」と、祖父江理事長・学長は愛知医科大学の今後の展望を語っています。

部門の3部門から構成され、さまざまな学術情報の蓄積、提供を行っています。シミュレーションセンターのや看護実践センターも学生の教育支援に役立てられています。国家試験に向けた学修施設が「医心館」で、主に医学部6学生次生と看護学部4学生次生が活用しています。内部には国家試験に向けてグループディスカッションができるセミナー室や、個人で集中して学習できる視聴覚個人ブースなどを備え、毎年4月から国家試験が終了するまでの期間は朝7時から最大24時まで利用が可能となっています。



祖父江元 理事長・学長
1975年名古屋大学医学部卒業。81年同大学院医学研究科修了（医学博士）。米国ペンシルベニア大学客員研究員、名古屋大学医学部神経内科学教授、同大学院医学系研究科長・医学部長、愛知医科大学理事長などを経て2020年より現職。

1972年に医学部の単科大学として開学した愛知医科大学は、その後大学院医学研究科、看護学部、大学院看護学研究科を開設。2022年には創立50周年を迎え、今日では4600名を超える医学部卒業生、2000名を超える看護学部卒業生を数える、中部圏屈指の医系総合大学として発展を遂げています。

大学病院は高度医療を提供する特定機能病院であり、ドクターヘリを擁するなど、地域医療に大きく貢献しています。研究面でも、バイオバンクが私立医科大学として初めてAMEDに登録されたのをはじめ、文部科学省の私立大学ブランディング研究事業、私立大学等改革総合支援事業に採択。こうした世界的な研究・診療リソースに基づく医学・看護学教育により、「THE日本大学ランキング2023」でも、教育リソース部門で全大中学第10位という優れた評価を獲得しています。

愛知医科大学

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1-1 医学部入試課 TEL 0561-61-5315(直通) https://www.aichi-med-u.ac.jp/

全国屈指の先進的な医療環境で 開学50周年の節目を迎えた 「社会から評価され、選ばれる医科大学」

優れた医療人を育成する 卓越した教育研究環境

愛知医科大学の建学の精神は「新時代の医学知識・技術を備えた教養豊かな臨床医を養成する」「時代の要請に応じて地域社会に奉仕できる医師を養成する」「医療をよりよく発展向上させるための医学指導者を養成する」ことです。

愛知医科大学が掲げる「よき医療人」を育成するためには、基盤となる高度な教育研究環境が不可欠です。研究活動の活性化と研究成果の創出を担っているのが「研究創出支援センター」で、主に外部資金の獲得や産学連携を進める研究支援部門、共同実験室の管理運営を行う共同実験部門とバイオバンク部門の3部門が置かれています。

特に血液や組織などの検体と、それに付随する診療情報を補完するバイオバンク部門が充実しており、AMED（国立研究開発法人日本医療研究開発機構）のバイオバンクリストに、私立医科大学としては最初に登録。がん組織や、患者さんの血液

などの検体の蓄積が進んでいます。「本学は文部科学省の私立大学ブランディング研究事業や、私立大学等改革総合支援事業にも採択されており、特色ある研究が進んでいます。大学附置の加齢医科学研究所では6000例を超えるブレインバンクが構築されており、これは脳研究の世界的な研究基盤ともなっています。また、2022年1月に本学に移転した日本造血細胞移植センターでは、全国350施設からの白血病を中心とした患者データを集積・解析しています」と、祖父江理事長・学長は説明します。

このほか、分子医科学研究所では多細胞動物の細胞の周囲にある細胞外マトリックスという特殊な構造に着目し、炎症や腫瘍などの病態解明、健康増進に向けた研究を展開。愛知医科大学病院ではがん温熱療法装置や最先端移動式術中イメージングシステムなどを導入し、治療効果の向上や安全かつ安心できる高度な検査治療ができるよう努めています。

このように、卓越した研究活動と最先端医療が目される愛知医科大学ですが、祖父江理事長・学長は「本初への破壊的イノベーション創出のため、挑戦的な研究開発を推進する9つの目標からなる国のムーンショット型研究開発事業（内閣府）のプログラムディレクターも務めています」。

これは、2050年までに、超早期に疾患の予測・予防をすることが

できる社会を実現するというもので、「こうした世界的な研究成果を大学の研究、臨床にも取り入れていきたい」と、祖父江理事長・学長は語っています。

ヒューマンズに徹した医学教育 海外を含む多様な実習先を整備

愛知医科大学は開学以来、高度で先進的な知識や技術の修得に留まらず、ヒューマンズに徹する教育を実施してきました。初年次教育では、入学直後から解剖学の講義が始まり、後学期からは生理学、生化学が開講。早期から医学の専門領域を学ぶことで、医学生としての学修意欲が高まります。また、シミュレーション実習、看護体験実習、臨床科見学実習を順次行い、医療人や医療のあり方を肌感覚で学べるカリキュラムになっています。

4学年次の10月からは診療参加型臨床実習を開始。実際の医療現場で知識・技能・プロフェッショナルズを修得し、実践力を養います。

